

平成30年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい五代の子」の育成

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○授業の充実（楽しく、どの子にも分かる授業）
- (2) 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- (3) 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- (4) 道徳教育の充実（豊かな心と道徳的実践力の育成をめざす）
- (5) 交流や体験学習を通して、人と関わることの喜びや達成感、自己肯定感を育む活動の充実
- (6) ○決まりを守り、礼儀正しい生活ができる等、規範意識の育成

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびようWGS学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を、「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導者として」、継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置付け、道徳教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図る。

- ☆つながりを通して学ぶ楽しさと居場所のある学校・子供の成長の視点に立った校務の見直し（分担と精選）

【学 習 指 導】

指導方法の工夫や問題解決的な学習等を取り入れた分かる授業を展開することで、学ぶ意欲や態度を育てるとともに基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

☆ 基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み、課題を解決し自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

【児 童 生 徒 指 導】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であつたこと」を常に確認し合いながら進める。

☆ 児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・保健指導・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

☆ 体力向上、健康安全教育、性教育、食に関する指導等との関連を図りながら、生涯にわたって心身ともに健康な生活を意識していける児童を育成する。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「わたしは、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.3% ↓ (89.5%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 94.5% ↑ (92.7%)、地域住民 100% → (100%) といずれも 90%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・友達と考えを交流する場を積極的に設定したり、係活動を活性化させたりし、「他者とのかわり」を大切にした支援を、引き続き行っていく。 ・水曜日のロング昼休みになかよし班で活動する「なかよしタイム」を月に1回程度実施し、班の連携を深めるなど、なかよし班活動の充実を目指す。 ・児童がさらに充実した活動ができるよう、活動の目的を理解させ、「新学習指導要領」「宇都宮市スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、諸計画を精選し、修正を加え実践していく。 ・それぞれの部会で話し合いを進め、小中で共通の取組ができるようにし、学力向上や健全育成が達成されるように努力する。また、相互乗り入れ授業等、事前の連絡を密に取り合いを進めていく。
		② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。	B	
		③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。	B	
		④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。	B	
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかり指導する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 97.5% ↑ (96.9%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 90.7% ↓ (91.8%)、地域住民 100% → (100%) といずれも 90%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・ロング昼休みに担任が学級の児童と遊び、教室では見られない児童の良さを見取る。教育相談を有効に活用しながら、児童一人一人を見取り、声掛けなどを継続的にしていく。 ・学校内外で保護者や地域の方々と挨拶や言葉を交わすなど積極的にコミュニケーションを図るとともに、来校者への誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。 ・各自が校務分掌において「学校経営の方針」の具現化に努め、取組を精選しながらスクラップ&ビルドを引き続き推進し、効率的な運営を行っていく。 ・欠席児童への電話連絡や家庭訪問の実施、来校者への積極的な声掛け等は、次年度も積極的に行っていく。
		② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。	B	
		③ 学校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。（新たな発想プラスワン企画、自分の得意分野を伸ばす、互いに支え合う組織づくり）	B	
		④ 欠席児童への電話連絡及び家庭訪問実施、授業参観時の来校者への積極的な声かけを行う。	B	
		⑤ 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるようにし、また誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。	B	

	⑥ 組織として機能できるようこれ からも校務分掌業務に対して主体 的に取り組んでいく。	B	
A 3 児童は、授業と生活のき まりやマナーを守り、秩序 があり安全な学校生活を している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授 業と生活のきまりやマナーを 守って生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「学習の約束」を教室に掲示し、 教師自らが行動に表し、常時児童 の意識づけを図り、自己評価をす る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 79.3%↑(76.3%)で、 数値指標 80%以上を下回っている。保護者 89.0%↑(87.1%)、地域住民 86.7%↓(100%)と いずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 ・「学習のやくそく」を掲示し、常時児童への 意識付けを図る。 ・週的生活目標を決定する際には、月目標にこ だわらずとも、児童の実態にあった目標を 示し、振り返りを必ず行う。 ・「五代の子の一日」は、年度初めに各家庭に 配付し、ルールの確認と意識付けを図ると ともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・下校指導や登校班編制などで集合した際に は、横断の仕方や歩行の仕方を練習する機 会を設ける。また、今年度行った登校班長へ の指導は、引き続き行っていく。 ・振り返りは、口頭でなく、振り返りカードを 活用し、目に見える形で行えるよう工夫し て実施する。 ・毎月開催している児童指導部会の場で、でき ていることでいていないことの共通理解を 図り、きまりやマナーを守ることを全校的 に推進していく。
	② 児童の実態に即して、月目標を 具現化した週的生活目標の設定や 周知を工夫するとともに、全職員 の共通理解に基づいた基本的生活 習慣に関する指導を徹底する。また、 生活の振り返りを毎週末に行 い、目標の達成を実感できるよう な指導の工夫を図る。	B	
	③ 「五代の子の一日」の提示を工夫 し、学期終わりや長期休業前に児 童の生活を振り返らせる機会を与 えるとともに、学級の児童一人一 人の個別指導の充実を図る。	B	
	④ 毎職員会議後の、特別支援を要 する児童の経過報告や児童指導委 員会においての事例研究などの研 修を実施し、児童理解に努める。	B	
	⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連 絡会により、学校間や地域との連 携を図る。	B	
	⑥ 学級懇談会の充実や育成会・自 治会等の協力により、家庭・地域と の連携を強化する。	B	
A 4 教職員は、分かる授業や 児童にきめ細やかな指導 を行い、学力向上を図って いる。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授 業は、分かりやすく、一人一人 に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分か る授業」の具体的方策を工夫し実 践することで授業力を高め、授業 や学習をより分かる楽しいものに していくことにより、学力向上を 図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 95.3%↓(95.4%)で、 数値指標 80%以上を上回っている。保護者 84.2%↑(82.9%)、地域住民 91.7%↓(100%)と いずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 ・学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成 するための具体的方策を工夫する。児童が 興味・関心をもって授業に臨めるような課 題を設定するとともに、「学習問題」を明確 にし、「まとめ」を意識した分かる授業を組 み立てる。 ・まとめや振り返りの時間を確保し、授業の終 末を充実させることで、学習内容の定着を 図り、学力向上につなげる。 ・学校課題研究や「一人一授業」の実践により、 教員間での学び合いを深められるようにす る。 ・「分かる授業」チェックリストの活用により、 自己評価を行い、授業力向上につなげられ るようにする。
	② 分かる授業を展開するために、 「一人一授業」(研究授業)を実践し、 自己研修と授業力向上に努める。 また、学年会や研修等で、「分かる 授業」として成果を上げた授業や 教材を他教員に紹介する。	B	
	③ 『「宇都宮市学校教育スタン ダード」に基づく授業力向上について」 の「分かる授業」チェックリスト (自校化したもの)を活用し、授業 評価を行い、授業力向上を図る。	B	

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳や学級活動、朝や帰りの会を活用し、「いじめは絶対に許さない」という意識を高める。 ② 「いじめゼロアンケート」や教育相談を実施することにより、いじめの早期発見と早期解決に努める。また、学年だよりやホームページにいじめゼロ強調月間の取組を掲載する。	A 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 96.3%↓(96.6%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 84.0%↑(73.4%)、地域住民 92.3%↓(100%)といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 - いじめは決してあってはならないことだということを4月の学級開きで児童に伝えるとともに、いじめを許さない雰囲気を醸成する。 - 昇降口に掲示を行うとともに、学校での取り組みを各種便りや学校ホームページを通して発信する。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 児童アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行ったりして、児童の成就感存在感を得られるような行事や日課になるよう継続実施を図る。 ② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。 ③ 「なかよしタイム」の活動を通して、高学年児童がリーダーシップを育む活動として本年度も継続して実施する。 ④ 就学時健康診断は5年児童が係を行うことで、次年度、新1年生に対し6年生としてかわることができるため、本年度も同様の方法で実施し結果を検証する。 ⑤ 教職員による各種行事の反省は、主務者を中心に速やかに行い、問題点を本年度中に検討し、改善策を検討し、改善策を考え、文書等に残し次年度に生かしていく。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 89.8%↑(87.3%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 97.5%↑(94.8%)、地域住民 100%→(100%)といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 - 児童主体の活動になるよう、今後も反省を生かし企画・立案に努める。また、地域の人材・教材の積極的な活用に努め、児童が主体的に活動できるような学習を実践していく。 - 今後も各行事の反省を速やかに行い、反省が次年度に生かされるように各主務者は、今年度中に改善策を検討し、次年度の主務者に引き継いでいく。 - 今後も「縦割り班清掃」や「なかよし班活動」を充実させ、異学年児童の交流を深めるとともに、高学年児童のリーダーシップを育む活動としていく。 - 就学時健康診断は5年児童が係を行うことで好結果を生みだすことができるため、次年度も引き続き、5年生が係を行う。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。 ② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。	B 【達成状況】 - 保護者の肯定的回答率は 95.1%↑(93.1%)を示し、数値指標 80%以上を上回っており、地域住民 100%→(100%)と達成状況は良好といえる。 【次年度の方針】 - 地域には自治会の回覧板で周知したり、コミセンに学校行事を掲示したりして情報の積極的な発信・提供を行っていく。近隣の学校には、メールや学校園掲示板で周知する。 - 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、

		③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。 ④ 児童の体力の状況は、「五代の子」(体育関係通信表)を1年間に1回ではなく、体力テストや各種検定後、保護者に渡し、把握してもらう。 ⑤ 学習や生活の状況は、通知票以外に、個人懇談や家庭訪問、学級懇談等で知らせられるよう、詳しく記録を残す。 ④ 危機管理情報は、宇都宮市が行う学校情報提供システム、メール配信による情報を速やかに伝えられるようにする。 ⑤ 小中一貫教育として、本年度「図書だより」を発行したが、新たな便り、ホームページ等で情報を発信していく。	B
--	--	--	---

A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 安全点検を確実に実施し、校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充などに努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。(年度初めの環境整備計画に沿って実施できるようにしていく。)	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、82.0%↑(79.4%)を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 67.6%↓(81.6%)、保護者は 89.8%↑(89.6%)、地域住民 86.7%↓(100%)であった。 【次年度の方針】 - 安全点検を確実に実施し、施設の保全に努める。教材教具が不足がちなので補充を進めたり、教材を自作したりし、児童が主体的に操作したり、観察・実験したりできるようにする。校内掲示は、計画に基づいて掲示委員会を中心に季節感のあるものを作成・掲示する。 - 清掃分担は年に3回変更し、新しい環境での新鮮な気持ちを大切に、清掃活動に意欲的に取り組めるようにするとともに、いろいろな清掃の仕方を身に付けさせる。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② 縦割り班清掃を実施し、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、82.2%↓(90.5%)を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 75.7%↓(94.7%)、保護者 83.7%↓(87.3)、地域住民 85.7%↓(100%)であった。 【次年度の方針】 - 若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛け、相互理解を進め、小・中学校間の学習での接続を意識した連携を行っていく。 - 今後も「地域学校園あいさつ運動」の計画的実践を行う。中学生による運動会の校庭整備の手伝い等交流可能なものを検討していく。
	① 有意義な乗り入れ授業や中学校訪問になるよう、担当者をはじめ、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また、互いの授業を参観する機会を設けるなど、職員が相互理解を図ることができるようにする。	
	② 学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。(運動会や陸上大会練習、そば打ち体験等)	
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 教職員アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、効果的な学校スタッフの活用を図る。	【達成状況】 - 教職員の肯定的回答率は、40.5%で、数値指標 80%を下回った。 【次年度の方針】 - 今後も SC の活用や、指導計画に位置付けられた ALT、司書、栄養士、学習ボランティア、の授業参加を行う。 - 副校長を通して地域コーディネーターと効率よく連携できるよう働き掛ける。
A 12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 教職員アンケート「教員は多	① 掲示板やメールの活用に関する共通理解を図り、多忙な中でも、効率的かつ確実にコミュニケーションを図ることができる方法を工夫する。	

	様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	② 業務の効率化を推進し、コミュニケーションを図るのに必要な時間の確保に努める。	B	合せができるよう、業間、昼休み、放課後等を利用して行う。
	B 1 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明を心がける。 ② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.4%↓(89.0%)を示し、数値指標 80%以上を上回っている。教職員 97.3%↑(94.7%)、保護者は 83.8%↓(87.4%)、地域住民は 100%→(100%)であった。 【次年度の方針】 ・家庭学習についての資料を配付し、家庭学習の意義や効果を保護者に伝えることで、家庭と連携して学習習慣の形成を図る。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。
教育活動の状況	生 A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施（地域学校園と連携しあいさつの日を年 6 回行う）するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。 ② 下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日を次年度も実施する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.5%↑(88.1%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 71.3%↑(69.6%)、地域住民 80%↓(100%)となっている。 【次年度の方針】 ・時と場に応じたあいさつがうまくできていない児童が見られるので、その都度指導をしていく。 ・教師自身が手本を示し、根気よくあいさつをし続けることで、上手にあいさつできるよう全校的に推進していく。 ・一斉下校の前の指導に、あいさつに関する指導も入れる。 ・各種たよりや学校ホームページ等にあいさつ運動の取り組みを紹介したり、あいさつを啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。
	A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「学習の約束」「五代の子の一日」の常時指導の結果を、教師も児童も常に振り返るようにする。 ② 発達段階に即した生活目標により自覚を促し、週の終わりには振り返りをし、生活に生かすようにする。 ③ 学校生活の様々な場面において、気持ちのよい言葉づかいについて継続指導をしていく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 79.2%↓(79.7%)で、数値指標 80%以上を下回っている。保護者 68.1%↑(67.0%)、地域住民 40.0%↓(88.9%)だった。 【次年度の方針】 ・「さん」づけを徹底する。ふわふわ言葉を推奨していく。 ・発言の仕方、話し方・聞き方を活用し、常時指導をしていくことで児童が意識できるようにしていく。 ・言葉のつかい方が適切でない児童に対し、発達段階に応じた言葉づかいができれば、言い直しなどの繰り返し指導を行っていくようにする。 ・教師自身が正しい言葉遣いで児童に接し、手本を示すことで全校的に正しい言葉遣いを推進していく。 ・各種便りや学校ホームページ等であいさつ運動の様子を載せ、取り組みを紹介したり、あいさつを啓発する内容を載せることで、家庭との連携を図ったりする。
			C	
			B	

	B2 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため、5月、10月、12月、2月に「いじめゼロ」アンケートによる実態調査を実施する。 ② 「うつのみや いじめ0宣言」を活用し、いじめ0運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成する。(5月、10月いじめゼロ強調月間) ③ 「おはなし会ぽけっと」の協力を得て、いじめ強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫していく。 ④ 教育相談月間「おはなしタイム」(年2回)の時間を確保し、充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。 ⑤ 学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。 ⑥ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。 ⑦ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。 ⑧ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。	B B B B A B B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 85.7%↓(88.3%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 95.6%↑(93.7%)、地域住民 100%→(100%)といずれも 90%以上になっている。 【次年度の方針】 - いじめに関するアンケートは今年度同様、5月、10月、12月、2月に実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 - いじめ0強化月間には、担任もいじめに関する本を読み聞かせできるように、市立図書館から一定期間借りるようにする。 - 学業指導に力を入れ、居がい感のあるクラスづくりを行う。 - 職員研修等を通して、学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 - アンケートをもとに、計画的に教育相談を行い、児童一人一人の受容的な態度で受け止め、解消していく。
健康・体力	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。 ② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりして、教科体育の充実を図る。また、運動の日常化を図るため、児童が意欲的に取り組めるような学習カードを充実させる。	B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 86.8%↓(87.4%)を示し、数値指標 80%以上を上回っているが、保護者 62.2%↑(61.7%)、地域住民 69.2%↓(88.9%)の評価は数値目標を下回った。 【次年度の方針】 「元気っ子健康体力チェック」において、市全体や全国と比較して落ちている点については、学校全体で体育時の準備運動に取り入れるなどして、より一層ミニマム達成に努める。 - サーキットに進んで取り組めるように、説明掲示物の整備をしたり、学習カードを活用して、児童が意欲的に取り組めるよう指導

		③ 児童が意欲的に運動に取り組めるよう、学級対抗によるイベント（ドッジボール大会やなわとび大会等）などを企画し、運動の日常化を図るきっかけを作っていく。	B	の工夫をしたりする。 ・遊具を使った遊びの紹介を積極的に行うことで運動の日常化を図る。 ・学級対抗のドッジボール大会や長縄跳び大会を引き続き実施し、児童が進んで楽しく運動に取り組むきっかけを作る。
A16	児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている（きれいなものでも1口は食べている。）」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育パンフレット」や食育ビデオを活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けさせるようにする。 ② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や望ましい栄養の取り方などについての理解を深められるよう指導を工夫する。 ③ 食に関する指導では、箸の持ち方ができない児童が多いため、重点化し、指導に取り組んでいく。 ④ 食事のしかたのきまりをつくり、担任がそれに沿って共通の指導をしていけるようにする。また、給食時計を活用し、食事時間の確保に努める。 ⑤ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る ⑥ 引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。	B B B B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 90.5% ↑ (80.9%) を示し、保護者 79.7% ↓ (80.3%), 教職員 97.3% ↑ (89.5%) とともに数値指標 80% 以上を上回った。 【次年度の方針】 ・学級懇談会や食育だより、ホームページなどにより、食に関する保護者への啓発を行い、食習慣や食事マナーについての協力を呼び掛ける。 ・マナー強化週間には給食委員会児童による呼び掛けや掲示物などにより児童の食事マナーの意識づけを図る。 ・学級活動の「食に関する指導」において、学校栄養職員と協力して指導に当たり、食事の重要性や栄養の取り方等さらに理解が深まるようにする。 ・機会あるごとに配付物等で給食指導についての共通理解を図り、学校全体で同じように給食指導ができるようにする。 ・「お弁当の日」を地域学校園で同一日に実施する。計画や振り返りのカードを活用して、食について家庭で考える機会とし、食への関心を高めると共に感謝の心を育てる。
B3	児童は、自分の健康の保持や、安全を考えて行動している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は自分の健康保持や安全を考えて行動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める ③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、88.5% ↓ (89.8%) を示し、数値指標 80% 以上を上回っており、保護者 86.8% ↑ (84.4%), 地域住民 100.0% → (100%) とともに評価が高い。 【次年度の方針】 ・歯ブラシの点検や磨き方等歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ・保健委員会の活動で歯ブラシチェックや手洗いチェックを行い、児童が自分の健康の意識向上につながるようにする。 ・季節に合わせた服装指導に努めると共に、その旨を保護者に通知する。 ・学年に応じて学カステップアップシートや生活習慣チェック等を活用し、家庭と連携を図る。 ・安全教育を充実させると共に、集団登下校時における安全確保のため、保護者・地域ボランティアとの連携を推進する。

		④ 集団登下校の実施, 自転車乗車時のヘルメット着用, 交通安全教室, 防犯教室, 不審者侵入想定避難訓練, 緊急時を想定した児童引渡し訓練, 「安全安心マップ」の作成などを通して, 自己保全能力(自分の命は自分で守る)の育成を図る。なお, 下校指導には全職員が当たるとともに, 地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	B	
学 習	A17 児童は, 進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は, 授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり, 整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに, 朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また, 習熟のための時数を確保し, 指導の充実を図る。 ② 朝の学習・長期休業で漢字・計算練習を充実させ, 向上を図る。 ③ ノートの記入を工夫し, 整理された分かりやすい使い方を指導する。 ④ 学習課題や学習形態を工夫し, 考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ, 児童同士が学び合うことができるようにする。	B B B B A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 87.1%↑(85.2%)を示し, 数値指標 80%以上を上回った。教職員 89.2%↓(92.1%), 保護者は 85.6%↑(83.5%) 地域住民は 66.7%↓(100%)であった。 【次年度の方針】 - 漢字の小テスト, まとめテストや算数の授業で学んだ内容の習熟問題を行い, 確実な定着を目指す。また, 計画的な朝の学習や長期休業, 毎日の宿題を通して, 漢字・計算練習を充実させ, 基礎的な学力の向上を図る。 - 学習問題からまとめまでを構造的に板書し, ノートとの一体化を図り, 整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。 - 単元を通した学習課題を設定し, ペア学習やグループ学習など, 児童が意欲的に学習に取り組める学習形態を工夫しながら問題解決的な学習を仕組んでいく。
	A18 児童は, 落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は, 授業中に先生や友達の話をよく聞くなど, 落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 教室に掲示してある「学習の約束」を時々読み合わせるなど確認したり, 自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。 ② 授業開始時刻の遵守, 学習用具の準備や話を聞く態度, 発表の仕方など基本的な学習態度や学習技能の習得を図る。	B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 82.1%↑(80.2%)を示し, 数値指標 80%以上をわずかに上回った。保護者は 82.1%↓(85.7%), 地域住民は 69.2%↓(100%), 教職員は 83.8%↑(76.3%) だった。 【次年度の方針】 - 引き続き, 「学習の約束」を確認し意識させることで, 学習に向かう姿勢を定着させる。 - 教職員も授業開始時刻を守ることで, 授業時間いっぱい学習活動に集中できるようにする。
	A19 児童は, 地域でのボランティア活動や行事に参加している。	① 道徳の授業等において地域でのボランティア活動や行事に参加する意義について, 児童に教える。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 77.5%, 保護者は 50.8%で, 数値指標 80%を下回った。地域住

		④ 会話することの楽しさを体験させ、伝えたいことを相手に分かりやすく話したり、進んで相手の話を聞いたりするなど、自分の気持ちや考えを伝え合う力を育成する。	B	・授業のノートや感謝の手紙など、自分の考えを書く機会を多く設定する。 ・「発言のしかた」や「話し方・聞き方」を活用する。
B6 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年:道徳や授業、体験活動など)では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 特別の教科道徳では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料、道徳の教科書を有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 92.4%↓(93.6%)と、数値指標 80%以上を上回っている。教職員は 97.3%↓(97.4%)、地域住民は 81.8%↓(100%)、保護者は 85.8%↑(84.7%)だった。	
	② 読み物資料以外にも、インターネット教材など各種教材を開発し、心に響く授業の展開をする。	B	【次年度の方針】 ・教科書教材だけでなく、必要に応じて教材の開発をしていく。実践した資料等は学年ごとに保管・整理し、いつでも活用できるようにする。	
	③ 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。	B	・幼保小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。	
	④ 全校一斉の特別の教科道徳の授業参観を実施する。	B	・なかよし班や縦割り清掃班などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。	
	⑤ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。	B	・全校一斉の道徳の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。	
	⑥ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達といっしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。	B		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、多くの項目で肯定的回答の割合が80%を超えている。(保護者は23項目中17項目、地域住民は22項目中17項目、児童は22項目中18項目)
- ・教職員は、昨年度より肯定的回答が5%以上高くなった項目が6項目、5%以上低くなった項目が4項目あった。地域住民は、昨年度より5%以上低くなった項目が14項目あった。保護者は、昨年度より5%以上高くなった項目が1項目あり、児童は、5%以上高くなった項目が1項目、5%以上低くなった項目が1項目あった。教職員と地域住民で評価の変動が大きく、評価が低くなったものについては真摯に受け止め、対応を検討していく。
- ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、肯定的な回答の割合が90%を超えたものは「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している。」「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」である。引き続き学校への理解を深めていただくために各種便りやホームページの充実、授業参観やオープンスクールをはじめとする学校公開の取組に努めていく。
- ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」97.5%、「児童は、楽しい学校生活を送っている」95.6%、「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」95.1%、「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」94.5%、「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」92.2%であり、学校の取組に対して理解を示していることがうかがえる。

- ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が低いものは、「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」50.8%である。地域行事やボランティア活動に参加する意義やよさを伝えるとともに、そうした行事への参加を促す働きかけを行っていく。
- ・「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」は保護者 71.3%，地域住民 80%，児童 89.5%，教職員 78.4%だった。児童会を中心に、全職員共通理解の下、指導に取り組んでおり、「あいさつ運動」として学級ごとに分担を決めて、朝の昇降口前で実施した。また、あいさつカードを配るなどの工夫もしている。若松原地域学校園で「あいさつの日」として2か月に1回程度、木曜日の朝に中学生がきて一緒にあいさつをしている。高学年生のリードする影響もあると思われ、登校班長が率先してあいさつすると、下級生もできるようなので、上手なあいさつの仕方を指導していく。引き続き学校の課題の一つとして取り組んでいく。
- 「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」は保護者 83.7%，地域住民 85.7%，児童 82.2%，教職員 75.7%である。前年度と比較すると、肯定的回答の割合は下がっているが、地域学校園でのあいさつ運動などの特色ある活動が行われており、こうした活動は今後も各学校の状況に応じて継続していく。
- ・「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」は保護者 68.1%，地域住民 40.0%，児童 79.2%，教職員 70.3%である。保護者・地域住民・児童・教職員ともに評価が低い。学校、家庭が一体となって考え、取り組んでいかなければならないことである。学校においては、児童指導部会を中心に改善策を考え、粘り強く指導していきたいと考えている。
- ・「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」は、保護者 84.0%，地域住民 92.3%，児童 96.3%，教職員 100%で、地域住民・児童・教職員の肯定的回答の割合は高いが、保護者は低い。しかし、昨年度よりも10.6ポイント上がっている。昨年度の反省をもとに児童も教職員もいじめ防止へ積極的に取り組んでいることを保護者に向けて、発信したことが表れている。さらに学校での取組が分かるように発信していきたい。
- ・児童の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」97.5%「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」96.3%「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」95.3%、「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる。」94.7%、「学校（道徳、授業、体験活動など）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」92.4%、と、児童は、教職員・保護者・地域の方々に見守られ、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。

6 学校関係者評価

- ・大人が、地域でも家庭でも、あいさつをして見せることが大切である。
- ・児童から先にあいさつできるように指導してほしい。
- ・あいさつは学校ではよくできているが、地域でもできるような働きかけが必要である。
- ・時と場を考えた言葉づかいができるようにすることが大切である。特に、目上の人に対する言葉づかいが地域でも家庭でもできるようになってほしい。また、言葉だけの問題ではなく、目上の人に対する尊敬や感謝の気持ちを教えることも必要である。
- ・「進んで運動しているか」というアンケートの結果は、職員と児童の肯定的な回答の割合は高く、保護者と地域は低い。これは、学校では進んで運動しているが、帰宅後はできていないという現状があるからではないか。公園ではキャッチボールなどの子供たちにとって魅力的な遊びは禁止され、魅力的なゲームが身近にある現状では、帰宅後に進んで運動するというのは難しいのではないか。保護者が、子供たちを地域行事に連れ出したり、部活に加入させたりするように働きかけたり、校庭利用を促したりしてはどうか？
- ・「進んで学習に取り組んでいる」「落ち着いて学習に取り組んでいる」の地域の肯定的回答の割合は低かった。しかし、保護者、職員、児童はさほど変わっていない。地域の方々が、学校の現状を把握するには1回の授業参観では難しく、授業参観等の機会を増やす必要がある。
- ・清掃指導が行き届いていないように感じられた。放課後使用する際に、トイレトペーパーが散らかっていたり、特別教室のごみ箱のごみが長期間放置されていたりすることがあった。清掃担当者が清掃場所を点検し、せめて、目に付くところは子供たちにきれいにさせてほしい。
- ・「人材活用により、教員の業務が縮減されているか」に関する職員の肯定的評価が低かった。SCやALTの積極的活用、司書・栄養士・学習ボランティア等の計画的・効果的な授業参加、外部人材の有効活用を推進してほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体的な傾向として肯定的回答の割合が高く、校長の学校経営方針を全職員が共通理解して教育を進めてきた成果が見られる。今年度の評価を受けて検討した具体的な取組を行い、来年度も、さらに肯定的回答の数値が上昇することを目指して全職員で取り組んでいく。
- ・「あいさつ」については、今後も教職員が率先して手本となるようなあいさつを心がけ、地域や家庭と連携しながらあいさつ運動に取り組んでいく。児童から先にあいさつができるような働きかけも行っていく。
- ・「言葉づかい」についても、教職員が手本となるような言葉づかいをするとともに、授業中の言葉づかいの指導を重点的にを行い、時と場をよく考え、適切な言葉遣いができるように指導していく。
- ・「運動」については、公園の遊び場としての魅力の低下や手軽に遊べるゲームの普及により放課後に進んで運動することは難しい状況にある。保護者に部活や地域行事に参加するような働きかけを行ったり、校庭利用を促したりすることで、改善を図っていく。
- ・今年度の成果と課題を受けた「次年度の方針」に基づき、児童がさらに充実した学校生活が送れるようにするため、「主な取組」を具体的に設定し、「評価指標」達成のための活動を積極的に推進する。「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育推進計画」「宇都宮市小中学校体力向上計画」等の趣旨を踏まえ、見直しを図る。